

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月27日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①自立と社会参加を目指し「学びの連続性」「個のニーズに合わせた教育」を推進する。	①-1 作成した体育の「教科指導内容表」を基に実践を進める。 ①-2 他教科について指導内容表の作成に取組む。	①-1 令和3年度に作成した各学部の「教科指導内容表」を基に、実践を進めながら学部の系統性に沿った修正を行う。 ①-2 各教科会で指導内容表の作成に向けた検討・実践を行う。	①-1 体育について学部間の系統性を考えた内容表の検討・修正ができたか。 ①-2 体育以外の教科で指導内容表の作成に向けた取組が実践されたか。	①-1 作成した体育の「教科指導内容表」を基に実践し、内容表の検討・修正ができた。 ①-2 美術・図工、家庭・生活においては、内容表の作成がほぼ完了。音楽においても完成の見通しを持てた。	①-1 授業実践し、各学部の内容表と照らし合わせ、更に系統的な指導を目指す。 ①-2 音楽については早期に完成させ、美術図工、家庭・生活においては作成した表を基に実践を重ね、常にアップデートしていく。	<学校運営協議会> ①先行している体育と同様に、他教科も取組んでほしい。	①-1 体育の「教科指導内容表」を基に、各学部で実践し内容表の検討・修正はできた。次年度以降も実践を重ね系統性の検討を進めたい。 ①-2 他教科も体育と同様に作成した内容表を基に実践し、検討・修正に取組む。	①各教科において、各学部の「教科指導内容表」を基に、小学部から高等部までの系統性を検討する。
	②児童・生徒の命を守る教育を推進する。	②学校全体の防災教育計画を検討し、体系化する。	②令和3年度に集約した各学部の授業実践を基に、防災教育計画を検討する。	②学校全体の防災教育計画が検討・体系化されたか。	②各学部の授業実践を基に現状の把握や今後の課題等を整理した。	②各学部の防災教育について情報交換しながら引続き学校全体の防災教育計画を検討し体系化に向けて取組む。	<保護者アンケート> ②「防災対策等の整備」について、88.3%の評価を得た。	②学部毎に実践・検討し、現状の把握や今後の課題等の整理に取組んだ。次年度も計画的に取組みたい。	②校務グループ安全防災班と連携し、組織的、計画的に進め、学校全体の防災教育計画の体系化を目指す。
2 (幼児・児童) 生徒指導・支援	①アセスメントを充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	①計画的にアセスメントを実施する中で、根拠に基づいた課題の分析を反映させた個別教育計画を作成する。	①-1 アセスメントの観点を整理し、計画的にアセスメントを実施する。 ①-2 各学級でアセスメントに基づいた、個別教育計画を作成する。	①-1 各学部・学年で計画的にアセスメントが実施できたか。 ①-2 各学級でアセスメントに基づいた、個別教育計画を作成できたか。	①-1 各学部・学年で計画的にアセスメントを実施した。 ①-2 アセスメント実施結果に基づき、個別教育計画を作成できた。	①-1 各学部・学年での計画的なアセスメント実施の定着を目指す。 ①-2 アセスメント研修を実施し、課題分析等職員の実践力を向上させる。	<保護者アンケート> ①「実態を的確に把握した上で目標・手立てが設定されている」について、95.5%の評価を得た。 <学校運営協議会> ②従来の交流や学部によっては新たな取組ができたことは評価できる。	①各学部のアセスメントをより充実させることは必須。職員のスキルアップを目指したい。	①児童生徒の実態に応じて計画的にアセスメントを実施し、指導・支援に活かしていくことに継続して取組む。発達段階の把握に関する職員研修を継続する。
	②インクルーシブ教育に係る本校の役割を模索し、推進する。	②学校行事等を通して取り組める、新たな交流方法を検討し、計画・実践に結びつける。	②学校行事等(作業班バザー等)を通して取り組める、オンラインも含めた新たな交流方法を検討し、計画を作成、実践する。	②学部行事等を活用した交流の計画ができたか、実践に結びつけられたか。	②各学部計画通り、または新たな交流にも取組むことができた。	②様々な形での交流の体制ができた。従来(対面式)の交流学習と新しい形での交流学習を組合せる等より効果的な交流学習のあり方を検討する。	<保護者アンケート> ②「近隣校や分教室設置校との交流が共生社会実現に向けた取組となっている」については61.7%で十分とは言えない結果であった。	②各学部計画通り、または新たな交流にも取組むことができた。より効果的な交流学習のあり方を検討したい。	②リモートと対面式での交流学習を組合せる等より効果的な交流学習のあり方を検討し、実践につなげていく。

	視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月27日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	卒業後の生活を見通し、小・中・高それぞれのライフステージに応じた進路指導・支援を実施する。	改訂した進路指導の手引きの内容を教員間で共有し保護者学習会等でわかりやすく説明する。	各学部で開催の保護者対象の進路学習会にて、令和3年度に改訂した手引きを基に身につけたい力と、具体的な取組みを説明する。	保護者に進路学習会のアンケートを実施し80%以上の理解度。	懇談会等で手引きや実習の様子を紹介し、概ね肯定的な感想をいただいた。(アンケート90%)	教員に対しては、班会内での確認に留まった。教員に向けて共有する時間を設定できるよう次年度の校内研修の項目に追加した。	<保護者アンケート/学校運営協議会> 全学部において「進路指導の充実」が今後に期待することで1位。進路に関する情報発信は91.7%の評価を得た。	保護者対象の進路懇談会や進路ビデオ上映会で手引きの内容を参考に説明した。教員に向けて共有する時間を設けたい。	教員に向けて次年度の校内研修の項目に加え、手引きの内容を共有する。
4	地域等との協働	①学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。	①農園での野菜づくり及び遊び場づくりを地域との連携で進め、校内での活用を充実させる。	①市の環境事業局等との土づくりなど連携を通して、品質の良い野菜作りのための生徒の活動を改善する。 ②地域と連携し遊びのメニュー・環境整備から児童・生徒の活動を増やす。	①地域との連携により、生徒の活動が改善されたか。 ②農園での遊びのメニュー・活動日・参加数が増えたか。	①農園に関わる様々なこと(土づくりに加えて育成に必要な支柱作り等)を作業内容にすることで、生徒が活躍する場面が増えた。 ②農園に滑り台を設置。高等部受注班が商店街で段ボール集めを行った。	①夏場の暑さ対策による授業変更に対応することが課題である。 ②校内・校外への取組みの発信をして、関わる人の輪を広げる。	<学校運営協議会> ①②「プロセスから関わる」ことが重要である。成果にとらわれるのではなく過程を、連携を大事に考える。たとえその時成果が出なくても連携した取組の実績が後になって評価できることがある。	「遊び場」「農園活用」とも地域と連携して活動することができた。夏場の活動内容や校内外への情報発信等次年度に向けて取組みたい。	今年度の実績を基に活動の継続と積極的に情報を発信して、地域との連携を充実させていく。
		②センター的機能の更なる推進を図る。	②-1 地域を支援する人材の育成を図る。 ②-2 本校の特別支援教育のノウハウを発信する。	②-1 子ども支援班の会議・職員研修会を通し、地域の学校の要望や職員が身につけたい力を周知する。 ②-2 教育活動や教材教具・支援の手立てなどを学校巡回訪問時やHP等で発信する。	②-1 研修会後のアンケートで、90%以上の肯定的評価が得られたか。 ②-2 HP やプリント配付で情報発信が進んだか。	②-1 巡回相談や専任会の情報共有が班会の内容として定着。地域の学校の教員研修を実施。肯定的な評価を得て、巡回相談に繋がった。 ②-2 巡回訪問時やHP等で発信した。	②-1 引続き班会の内容の充実や地域の学校のニーズを知る機会を持ち、人材育成を図る。 ②-2 教材等の校内資源データを整理し、情報発信の準備を進める。	<学校運営協議会> ②-1 職員の現場体験はとて面白い刺激になり、いい交流になる。 <保護者アンケート> ②-2「地域や保護者への情報発信」の項目が74.8%で、十分伝わっているとは言えない。	地域の学校の教員研修を受入れ、支援の方策について班員と一緒に考えることができた。教材教具や支援の手立て等校内はもとより、地域への情報発信を進めたい。	地域の学校のニーズを知る機会を継続させ、人材育成に努める。本校の特別支援教育のノウハウを校内そして地域に発信できるよう準備を進める。
5	学校管理 学校運営	事故不祥事防止を徹底する。 児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。	【事故】不祥事防止会議・研修会において事故・ヒヤリハット事例について職員で共有する。【人権】各学部(学年)でテーマを設定、人権に配慮した行動に取組む。 業務の効率化・縮減を見える化する。	【事故】学期に一度、事例の具体や傾向を不祥事防止研修会にて職員間で共有する。【人権】各学部(学年)で、学期ごとに行動テーマを設定し、人権に配慮した行動に集中的に取組む。 ①各グループ・学部で運営計画に「業務の効率化」について位置付ける。 ②職員からのアイデアを集め、職員会議・ポータルサイトを活用し、職員間で周知する。	【事故】学期に一度、事故・ヒヤリハット事例の共有ができたか。 【人権】学期ごとにテーマを設定し取組めたか。 ①各グループ・学部で位置づけられたか。 ②アイデアを周知できたか。	【事故】毎月実施の研修会において、資料を活用して実施。 【人権】「不適切指導」「さん付け呼称」「あいさつ運動」等設定し、人権に配慮した行動に取組んだ。 ①各グループ・学部で「業務の効率化」に向けて取組んだ。 ②アイデアを集めるまでには至らなかったが、各グループ・学部の実績をまとめ、職員会議で職員全体に周知した。	【事故】ヒヤリハット事例については、研修会のみならず、随時必要に応じて職員間で共有し、未然防止に努める。【人権】今年度の実績を基に、次年度も学部ごとにテーマを設定し人権に配慮した行動に取組んでいく。 ①今年度の実績を基に職員の意識向上を図り次年度も継続して「業務の効率化」に取組む。 ②個人だけでなく、各グループ・学部で出たアイデア(実績)を定期的に職員に周知する等「見える化」していく。	【事故】<保護者アンケート> 事故・不祥事に関わる観点として「個人情報の管理・運用」「健康安全に配慮した取組」「会計報告」は、いずれも90~92%で良好。 【人権】<保護者アンケート> 「人権を尊重する丁寧な指導」の項目で88.3%の評価を得た。 <学校運営協議会> 各学部・グループで取組み、業務改善をまとめたことは評価できる。	【事故・人権共通】 研修会以外にも随時必要に応じて注意喚起を行い情報を共有し、未然防止・人権に配慮した行動を維持したい。 ①②各学部・グループで取組んだ「業務の効率化・縮減」をまとめ、職員全体に周知した。引続き身近なところから意識して取組んでいきたい。	【事故・人権共通】 研修会をはじめ、学部、学年などでテーマを共有し、随時行動を振り返り見直す機会を持ち、未然防止・人権に配慮した行動を継続する。 ①②職員の意識改革を継続して、組織的に業務改善に取組む。

